

教員 EA プロジェクト応募資料

応募区分	研究開発部門
所属(園・学校名)	垂井町立表佐小学校
氏名	表佐小学校全職員(代表:生徒指導主事 酒井 明彦)
研究テーマ	いじめ未然防止プロジェクト「ハッピー・プログラム」 ～いじめの実態を認知し、防止のための判断力・行動力をつける～
研究概要	「いじめはしてはいけない」ということを誰もが知っているにも関わらず、学校の中でいじめが起きている。その要因の一つには、加害者の「遊びだった」「みんなもやっているから」「相手からやってきた」などのシンキングエラー(誤った考え)があると考えられている。また、嫌なことが起きた時の被害者や傍観者がどんな行動ができるか判断するための認識が十分でない。そのため、学校で起こりうる事例から授業プログラムを作成し、加害者・被害者・傍観者の気持ちを考えて交流したり、被害者や傍観者が嫌なことが起きた時にどんな行動ができるかを考えたりする授業を行うことが大切であると考えた。
到達目標	○起こりうる事例をもとにしたいじめ未然防止プロジェクトの理解 ・いじめの要因を加害者・被害者・傍観者の言動を視点に話し合う ・起こりうる事例とそこに潜むシンキングエラーの検討 ○どの学級でも実践を可能とするプロジェクトのプログラム化 ・教師による事例の寸劇(動画資料)の作成 ・ワークシート、プレゼンテーション、板書計画の作成 ○プログラムをよりよいものにしていくための研修の実施 ・プログラムの実践(授業公開) ・実践の交流と、成果と課題の整理→PDCAサイクルによるプロジェクトの充実
得られた成果の波及効果	このプログラムは、どの学校でも、どの先生でも、どの学年でも、児童の実態に合わせたプログラム(事例)を選択し、実践できるものにしていきたい。そのために必要なワークシート、プレゼンテーション、板書用掲示物などを共有できるようにする。また、学校の実態や事例に合わせて新しいプログラムを簡単に作成できるようにすることで、垂井町内の学校で実践できるようにしていきたい。
校長(園長) 所見	いじめに対する日常的な指導で児童が理解しているはずという教師のシンキングエラーにも目を向けてくさびを打つ実践である。いじめ未然防止の授業をプログラム化することで、負担感なく実践できる上に、事例の追加、改良も容易となる。何より職員が一丸となって取り組むことで、いじめに対する敏感な感覚を養うことを大いに期待したい。

R5年度よりハッピープログラムを作成し、実践を進めている。今年度は、その実践を踏まえ、プログラムを改善したり、新プログラムを作成したりするなど、プロジェクトの充実を図る。

夏季休業中には、1学期の児童の実態をもとに、新しいプログラムの動画資料やワークシートを作成した。2学期以降、実践していく予定である。

以下は、ハッピープログラムについての職員研修の折に使用しているプレゼンテーション資料の一部である。

いじめ未然防止プロジェクト「ハッピー・プログラム」


1. 授業プログラムを作成

- ① いじめ未然防止プロジェクトの理解（年度当初）
- ② 実態に応じたプログラムの検討
- ③ 動画資料やワークシート等の作成

2. 授業

- ① 具体例を挙げる。（会話形式・教師による寸劇など）
- ② 加害者・被害者の気持ちを想像する。
- ③ 加害者のシンキングエラーに気付かせる。
- ④ 被害者と傍観者の具体的な行動を考える。
- ⑤ みんなで居心地のよい集団にするために行動することを確認する。
- ⑥ 自分の生活の中の行動をフィードバックする。
（行動を変えることで、自分もみんなもうれいことに気付かせる。
ポジティブシンキング）

3. 授業後 児童の思考や行動の変容を把握し、次へつなげる



授業の準備

【準備①】 児童の実態に合わせたプログラム内容を選ぶ

①ファイル名
・プログラム番号
・シンキングエラーの概要
・場面

②Word→児童用ワークシート
PowerPoint→授業の流れに沿った提示用資料

- ① ハッピープログラム①ただの遊び・違いがける
- ② ハッピープログラム②ただの遊び・違いがける
- ③ ハッピープログラム③汚いから・机を運ばない
- ④ ハッピープログラム④汚いから・机を運ばない
- ⑤ ハッピープログラム⑤注意を聞かない・きつい呼びかけ
- ⑥ ハッピープログラム⑥注意を聞かない・きつい呼びかけ
- ⑦ ハッピープログラム⑦ほくだけじゃない・スポンを下げる
- ⑧ ハッピープログラム⑧ほくだけじゃない・スポンを下げる
- ⑨ ハッピープログラム⑨特定の子をせめる・サッカー
- ⑩ ハッピープログラム⑩特定の子をせめる・サッカー

【準備②】使いたいプログラムの資料準備

児童用ワークシート

学習の流れに沿ったパワーポイント資料



プログラムの例

ばめん【場面】

Aさん：仲良しの友達を違いかけてわざとぶつかる。

Bさん：いつもわらっている。
「本当は、いやだな。でも、Aさんにいやだって言うの、こわいし…」

Aさん：「Bさんは、いつも笑っているから、いじめじゃなく遊びだよ。」

Cさん：Bさん笑っているけれど、本当はうれしいのかな。

